

新聞記事は、大事なことを分かりやすく伝えられるように書かれています。

まず、大事なことを含めた記事のおおまかな内容を最初に書きます。これをリード文（前文）と言い、「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」を入れて書くようにします。

その後に、なぜそうなったかというような具体的な内容を書いていきます。

詳しくは中日新聞NIE事務局ホームページの動画を見ましょう。

それでは、次の「大鷲院の化け猫」という民話のリード文を書いてみましょう。

昔、大鷲院の住職が檀家の葬儀に行ったときのこと。お経を上げていると、にわかには空に暗雲が立ち込めて、嵐となった。参列者がうろたえていると、住職はなにを思ったか急に棺にまたがり、死者を守ろうとした。このとき、目をらんらんと輝かせ、耳まで裂けた真っ赤な口を開けた化け猫が棺めがけて襲いかかってきた。

住職が払子（麻や獣毛を束ねて柄をつけた仏具）を振り上げて、大声で一喝し顔を打ち据えると、化け猫はこっせんと消え、嵐も収まって晴天に戻った。

問1：次の確認をしましょう。

- ・いつ：
- ・どこで：
- ・だれが：
- ・何を：
- ・どうした：

問2：問1を参考にして、リード文を60字以内で書いてみましょう。

【活用にあって】

学校では事実を客観的に書くという作文の授業を、あまり行っていません。作文のほとんどは意見文、感想文です。事実ははっきりしているのだから、そのまま書いただけじゃないか、簡単なことだと思われがちですが、実際はなかなか書けません。新聞記事の書き方に学ぶことです。

解答例

問1：・い つ：昔

・どこで：檀家の葬儀の場

・だれが：住職

・何 を：化け猫

・どうした：一喝し、顔面を払子で打ち据えた

問2：昔、檀家の葬儀でお経を上げていた大鷲院の住職は、棺に襲いかかってきた化け猫を一喝し、顔面を打ち据えて追い払った。(56字)

※ 問1の内容を骨組みにして、下線部のような修飾する言葉を入れるとうまくまとまります。